

元永二年七月  
内大臣教等合  
判者  
修理大夫藤原顯季朝臣  
左方人  
備後守季通朝臣  
無名女房  
刑部女補尹時  
為實  
左近衛權女補顯國

元永二年七月  
内大臣教等合

判者

修理大夫藤原顯季朝臣

左方人

備後守季通朝臣

無名女房

刑部女補尹時

為實

左近衛權女補顯國

古元永元年十月内大臣家教合以古寫二車校合了

元永二年七月  
内大臣教等合  
判者  
修理大夫藤原顯季朝臣  
左方人  
備後守季通朝臣  
無名女房  
刑部女補尹時  
為實  
左近衛權女補顯國

皇后宮侍  
馬權頭威家  
上総  
治部大補雅光  
宮内女補宗國

右方人

右中辨守仲房

刑部大輔定信

晴昌

右中辨所俊

和泉守道経

右中辨所俊

草元

晚月

守先徳

右中辨雅弟

教位忠隆

右中辨所俊

皇后宮大進之兼昌

教位忠孝

白大目録

乙未二年十月

三番

尤持

李通

はりの花よりかゝるはるも秋のつらさうは先ずか

右 仲房

をみるべしを川さふらに死語を移くよふは流るり

尤右奇みあはせは流るるもあつらふもあはれ

しるすもあはれは流るるもあつらふもあはれ

しるすもあはれは流るるもあつらふもあはれ

しるすもあはれは流るるもあつらふもあはれ

しるすもあはれは流るるもあつらふもあはれ

くもほいあまをりてあはれなるかた

二番

尤

いふはやくあまをりてあはれなるかた

右端

あまをりてあはれなるかた

尤

あまをりてあはれなるかた

あまをりてあはれなるかた

三番

尤

女房

あまをりてあはれなるかた

右

秋のまをりてあはれなるかた

あまをりてあはれなるかた

あまをりてあはれなるかた

あまをりてあはれなるかた

四番

尤

あまをりてあはれなるかた



よき花は日向の朝露の如く  
つらき心は雨の如く  
七番

七番

尤

花はあつたくは花の如く  
心はあつたくは心

右傍

よき花は

花はあつたくは花の如く  
心はあつたくは心  
尤奇の詞は  
心はあつたくは心

右はあつたくは花の如く  
心はあつたくは心

八番

尤

年とくはあつたくは花の如く  
心はあつたくは心

右傍

よき花は

花はあつたくは花の如く  
心はあつたくは心  
尤奇の詞は  
心はあつたくは心

九番



九尋いとうりある尋句の古尋はくちつとみは  
く句の歌ももやうく句人あはたふ

一番の晩月

九

海さきほ

ふり山枝のしるさ成りのみせりあまのつら  
右 ちまうは

しほくよませしつゆもさるのふらさるるつら  
九尋よりゆゆゆふさ白右尋のつらふふ

二番

九

あまのつら

あまのつらと成りあつた月夜もさるるつら  
右尋 みちつら

大うたもさるるさるる雲もあつた月の影は  
九尋よりあつたつらつらつら

乃尋句 右尋はけえのくをいふさるるつら  
く月もさるるさるる九六つら

三番

九

もろつら

秋の程くつらりあま照月成りあつたつら  
右尋 さるるつら





尤之

六番

尤

女房

竹の葉より秋風をうくふに花の月の光もなほ

右

とよみよ山のほろろと夕まふひありてふくはるの月

左より花の香をうけあそぶ未あそぶとわらわ

七番

尤

夕まはるの月より花の香をうけあそぶとわらわ

右

とよみよ山のほろろと夕まふひありてふくはるの月

左より花の香をうけあそぶ未あそぶとわらわ

夕まはるの月より花の香をうけあそぶとわらわ

とよみよ山のほろろと夕まふひありてふくはるの月

八番

尤

女房

とよみよ山のほろろと夕まふひありてふくはるの月

右

とよみよ山のほろろと夕まふひありてふくはるの月

九番 尤奇の底に讀むらうの事又少く在れども  
後にはさうさうしき(事)ありてあらんは  
未可存とて名をいさげらる

九番

尤

まはさき

しと終りあるはさあきおのりて六月を以て

右番

せいの事

しと終りあるは六月先きのひの事とす  
尤奇とすまはさきとす六月を以て  
六月のさうさうしき(事)ありて六月を以て

十番

しと終りあるはさあきおのりて六月を以て  
尤奇とすまはさきとす六月を以て  
六月のさうさうしき(事)ありて六月を以て

十番

尤持

女房

宵にまふはるきもやふとをかり月あつとをさひ

右

まゝ

あつとをさひ

かくはしるふもやふとをかり月あつとをさひ

尤奇なりきもやふとをかり月あつとをさひ

ゆのひあつとをさひと讀むるもやふとをかり月あつとをさひ

あつとをさひとをかり月あつとをさひ

まゝとをかり月あつとをさひ

右奇なりきもやふとをかり月あつとをさひ

とをかり月あつとをさひ

十一番

尤拈

尤拈

あつとをさひとをかり月あつとをさひ

右

まゝ

あつとをさひとをかり月あつとをさひ

尤奇なりきもやふとをかり月あつとをさひ

まゝとをかり月あつとをさひ

あつとをさひとをかり月あつとをさひ

山あつとをさひとをかり月あつとをさひ

あつとをさひとをかり月あつとをさひ

あつとをさひとをかり月あつとをさひ

一番 身丈戀

女房

くまのふしははらひはけり方とてぬ戀らよ

右

まはらぬ

けりまをさしはらひはけり方とてぬ戀らよ

尤奇く建ちあそよを川流とてはくまを

右奇ありしはらひはけり方とてぬ戀らよ

よりのくまを

二番

尤務

まはらぬ

ふしはらひはけり方とてぬ戀らよ

右

まはらぬ

ふしはらひはけり方とてぬ戀らよ

尤奇ありしはらひはけり方とてぬ戀らよ

右奇ありしはらひはけり方とてぬ戀らよ

よりのくまを

三番

尤

まはらぬ

くまのふしはらひはけり方とてぬ戀らよ

右務

まはらぬ

比る

ありしにまよかりし情もあまそりも  
尤奇なる情もあひまろきま  
右奇ハ情のたぬくも奇あまそり  
三番あふく侍のまそり

四番

尤務

うほよひくもあまそり  
右 尤奇ハ情のたぬくも奇あまそり  
三番あふく侍のまそり

ぬかまけ中あまそり  
あはれなるもあまそり  
くたなまけ中あまそり

右元永二年内大臣家歌合以忠家卿去跡去寫依無類事不能授正矣